

## ■ 効果の見える治水事業

### 高知県 後川広域基幹河川改修事業

～地域の発展とともに～

高知県中央東土木事務所長 さかもと りょういち 坂本 良一



後川は流域面積14.5km<sup>2</sup>、幹線流路延長13kmの一級河川物部川(流域面積508km<sup>2</sup>)の右支川である。その流域は山地部分がほとんどなく、旧物部川の氾濫原で標高1～20mの平担地であり、排水は物部川に平行に南流しています。また、流末は下流端にある幅500m、標高10mの海岸砂丘に遮られ流路を東に変えて物部川河口に注いでいます。

流域は県有数の穀倉地帯でビニールハウス園芸、養鰻が盛んであるが、ここ数年高知市のベッドタウン化に伴い開発が著しく、文教(大学、高専)、工場、空港と高度に土地が利用されています。しかし、排水は川幅も狭く流末も海岸砂丘に阻まれて、その機能は極めて小さく、常襲浸水地帯となっています。事業着手当時の排水はこの砂丘部を貫流する第1(昭和28年度完工)、第2(昭和37年度完工)、切戸(昭和29年度完工)の3放水路(暗渠)で直接海へ放流しているものと、物部川に注いでいる本川とがありました。しかしその排水能力が極めて小さいことから内水氾濫が頻発していました。

そこで昭和48年度より後川中小河川改修事業に着手し、後川新秋田川合流点下流から代替えて直接海へ放流する放水路を新設するとともに、後川本川1,770m、支川鎮野川750mの改修を進めました。さらに、また平成5年度から第2期高知空港拡張事業等の社会基盤整備に対応し効率的に治水施設の整備することで地域の発展を図るため、王子川1,320m、新秋田川2,532mにおいて重点的な流下能力増強対策を推進してきました。

今年度予算による事業完了により、浸水被害軽減はもとより地域の発展の起爆剤として寄与することが期待されており、地元住民の期待に応えるためにも一日も早い竣工を図っていく予定です。最後に用地協力を頂いた地権者の皆様をはじめ、地域住民の皆様、関係機関の方々に心から感謝申し上げます。



後川放水路



昭和38.8洪水による浸水被害



整備の進む新秋田川工区

## 土佐のまほろばの治水事業



南国市長 はしづめ としひと 橋詰 壽人

南国市は、古くは約1000年前、律令時代に国庁が置かれ、土佐の政治経済の中心地として栄えました。国司として赴任した紀貫之が、任を終え帰郷する際の心情を綴ったのが、有名な「土佐日記」です。特に、後川流域の高知空港周辺には土佐の稲作発祥の地で、弥生時代の集落・農耕跡が残り、現在、歴史公園化が進められるなど、当市は歴史遺産が豊富に残る「土佐のまほろば」です。

また、平成14年7月、南国市のJR土讃線後免駅から県東部の奈半利町まで「ごめん・なはり線」として開通、高知龍馬空港、高知新港や高知自動車道、そして、平成20年代半ば開通予定の四国8の字ルートを構成する東部自動車道「高知・南国道路」と併せ、当市は高知県の交通拠点としての地の利を有しています。

一方、豊かな耕地と温暖な気候に恵まれ、昔から、米の二期作が行われる地域として有名でしたが、現在は南国の地の利を生かした早場米や特別表示米の促進に努め、物流拠点南国の交通網を活用して、より美味しい米を消費者に提供しています。さらにピーマン、シントウなど施設園芸のほか生産性の高い作物も効率よく出荷、シェア拡大に努めています。

ところが、このような肥沃な農地を育んだ河川はひとたび洪水となると、大きな被害を与えて、市民を恐怖のどん底に陥れていました。近年では「'98高知豪雨」による浸水被害は記憶に新しいところですが、比較的治水対策の進んでいた後川流域でも多くの土地が浸水被害を被りました。そのため、さらに一層の事業進捗が望まれ浸水被害の軽減が図られたところで。

そのような経過を経て、長年浸水被害に悩まされてきた流域住民にとって平成20年度予算をもって待望の事業完了となります。今後は、さらに住民が安全で安心して暮らせるよう、市内の他河川の事業進捗とともに、国及び県と連携を図りながら地域防災計画の充実や浸水履歴図の有効活用・地域の自主防災組織といったソフト対策を進め、水害に強いまちづくりを推進してまいりますので、関係各位の更なる御尽力、御協力を賜りますようお願いいたします。



水難除けを願い、後川筋で行われているえんこう祭り



温暖な気候を生かした本市の特産品